

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	保健体育Ⅱ (Health and Physical Education)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	米女 博司
学科	柔道整復科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分	Ⅰ学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部				(2)	曜日・時限	火・水・金曜日 1・4限

【授業の学習内容】

柔道における礼節の重要性を学びながら、受身の練習を徹底する事により怪我の予防に心掛ける。また認定実技審査の受験項目である投の形の「手技」、「腰技」、「足技」を練習し、技の「間合い」や「理合い」を知る。乱取においては競技性を追求するのではなく、どのような技で投げられても怪我をしない、どのような技で投げても怪我をさせない事に重点をおく「約束乱取」を中心に行う。

※実務経験

柔道整復専科教員免許取得教員、中学・高校保健体育科教員免許 講道館柔道六段

【到達目標】

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・礼節の重要性を理解し、正しい礼法を習得できる。 ・基本となる受身を身に付け、怪我する事無く授業を終える事ができる。 ・投の形の「手技」、「腰技」、「足技」を習得し、実演できる。 ・柔道における技の「間合い」、「理合い」を理解し、「崩し」、「作り」、「掛け」を用いて約束乱取ができる。 <p>格闘技である事・相手が怪我をする可能性がある事を行なっているという自覚を持ち、相手に対する敬意、感謝の気持ちを忘れず、相手を尊重し人間関係を築くことができる。</p> |
|--|

授業計画・内容	
---------	--

1回目	「柔道」を行うためのオリエンテーション(授業の進め方や定期試験、認定実技審査で行われる内容の確認)
2回目	受身、打込、約束乱取の手順の説明。投の形(手技)の実演できる。
3回目	受身、打込、約束乱取の練習。投の形(手技)の実演できる。
4回目	受身、打込、約束乱取の練習。投の形(手技)の実演できる。
5回目	受身、打込、約束乱取の練習。投の形(手技、腰技)の実演できる。
6回目	受身、打込、約束乱取の練習。投の形(手技、腰技)の実演できる。
7回目	受身、打込、約束乱取の練習。投の形(手技、腰技)の実演できる。
8回目	受身、打込、約束乱取の練習。投の形(手技、腰技、足技)の実演できる。
9回目	受身、打込、約束乱取の練習。投の形(手技、腰技、足技)の実演できる。
10回目	受身、打込、約束乱取の練習。投の形(手技、腰技、足技)の実演できる。
11回目	1学期の復習、実技試験の事前説明。受身、打込、約束乱取の練習。投の形(手技、腰技、足技)の実演できる。
12回目	受身、打込、約束乱取、投の形(手技、腰技、足技)の復習を行い、実演できる。
13回目	受身、打込、約束乱取、投の形(手技、腰技、足技)の復習を行い、実演できる。
14回目	受身、打込、約束乱取、投の形(手技、腰技、足技)の復習を行い、実演できる。
15回目	柔道実技実技試験

準備学習
時間外学習

評価方法	実技試験	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験100%
------	------	--	----------

受講生へ	第1学年の授業で行う柔道は認定実技審査合格の基礎を作ります。年齢・性別に関係なく最低限の実力をつけてもらう授業内容であり、強さを求めるものではありません。柔道の素晴らしさを知り、楽しみながら身に付けて下さい。
------	--

【使用教科書・教材・参考書】	
----------------	--

教科書：南江堂「柔道」

--

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	保健体育Ⅱ (Health and Physical Education)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	米女 博司
学科	柔道整復科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分	2学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部				(2)	曜日・時限	火・水・金曜日 1・4限

【授業の学習内容】

柔道における礼節の重要性を学びながら、受身の練習を徹底する事により怪我の予防に心掛ける。また認定実技審査の受験項目である投の形の「手技」、「腰技」、「足技」を練習し、技の「間合い」や「理合い」を知る。乱取においては競技性を追求するのではなく、どのような技で投げられても怪我をしない、どのような技で投げても怪我をさせない事に重点をおく「約束乱取」を中心に行う。

※実務経験

柔道整復専科教員免許取得教員、中学・高校保健体育科教員免許 講道館柔道六段

【到達目標】

- ・礼節の重要性を理解し、正しい礼法を習得できる。
・基本となる受身を身に付け、怪我する事無く授業を終える事ができる。
・投の形の「手技」、「腰技」、「足技」を習得し、実演できる。
・柔道における技の「間合い」、「理合い」を理解し、「崩し」、「作り」、「掛け」を用いて約束乱取ができる。
格闘技である事・相手が怪我をする可能性がある事を行なっているという自覚を持ち、相手に対する敬意、感謝の気持ちを忘れず、相手を尊重し人間関係を築くことができる。

授業計画・内容	
---------	--

1回目	1学期の復習と内容確認。1学期の反省点や変更点があれば伝える。
2回目	受身、打込、約束乱取、投の形(手技、腰技、足技)の復習を行い、実演できる。(認定実技審査を意識し、シュミレーションも行う。)
3回目	受身、打込、約束乱取、投の形(手技、腰技、足技)の復習を行い、実演できる。(認定実技審査を意識し、シュミレーションも行う。)
4回目	受身、打込、約束乱取、投の形(手技、腰技、足技)の復習を行い、実演できる。(認定実技審査を意識し、シュミレーションも行う。)
5回目	受身、打込、約束乱取、投の形(手技、腰技、足技)の復習を行い、実演できる。(認定実技審査を意識し、シュミレーションも行う。)
6回目	受身、打込、約束乱取、投の形(手技、腰技、足技)の復習を行い、実演できる。(認定実技審査を意識し、シュミレーションも行う。)
7回目	受身、打込、約束乱取、投の形(手技、腰技、足技)の復習を行い、実演できる。(認定実技審査を意識し、シュミレーションも行う。)
8回目	受身、打込、約束乱取、投の形(手技、腰技、足技)の復習を行い、実演できる。(認定実技審査を意識し、シュミレーションも行う。)
9回目	受身、打込、約束乱取、投の形(手技、腰技、足技)の復習を行い、実演できる。(認定実技審査を意識し、シュミレーションも行う。)
10回目	受身、打込、約束乱取、投の形(手技、腰技、足技)の復習を行い、実演できる。(認定実技審査を意識し、シュミレーションも行う。)
11回目	受身、打込、約束乱取、投の形(手技、腰技、足技)の復習を行い、実演できる。(認定実技審査を意識し、シュミレーションも行う。)
12回目	受身、打込、約束乱取、投の形(手技、腰技、足技)の復習を行い、実演できる。(認定実技審査を意識し、シュミレーションも行う。)
13回目	受身、打込、約束乱取、投の形(手技、腰技、足技)の復習を行い、実演できる。(認定実技審査を意識し、シュミレーションも行う。)
14回目	受身、打込、約束乱取、投の形(手技、腰技、足技)の復習を行い、実演できる。(認定実技審査を意識し、シュミレーションも行う。)
15回目	柔道実技実技試験

準備学習 時間外学習	柔道実技で自己流の予習は非常に危険なので必要ない。授業で行った内容を必ず次の授業までに柔道場に来て復習する事が大切である。
---------------	---

評価方法	実技試験	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験100%
------	------	--	----------

受講生へ	第1学年の授業で行う柔道は認定実技審査合格の基礎を作ります。年齢・性別に関係なく最低限の実力をつけてもらう授業内容であり、強さを求めるものではありません。柔道の素晴らしさを知り、楽しみながら身に付けて下さい。
------	--

	【使用教科書・教材・参考書】
--	-----------------------

教科書：南江堂「柔道」

名古屋医健スポーツ専門学校 2024年度 シラバス

科目名 (英)	解剖学Ⅲ (AnatomyⅢ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	熊本 賢三
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	Ⅰ学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	金曜日 2・3限

【授業の学習内容】

柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能をおこなうにあたって必要とされる人体の正常な構造の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。特に神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能がいかなる構造によって可能となっているかの概念を習得し、本授業終了時には人体の正常な構造について説明ができるようになる。

※実務経験

担当教員は解剖学専攻で医学博士を取得し、大学に席を置いて専門学校や高等学校で解剖学、解剖生理学40年に渡り教育し、人体解剖実習の成果として「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」を北村清一郎先生と編集し、南江堂より出版した。

【到達目標】

人体解剖学の基本的体系を習得し人体の正常構造について習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の各種機能をおこなうにあたっての人体の構造を体系的に説明できる。

授業計画・内容	
---------	--

1回目	内分泌系総論について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
2回目	内分泌系・下垂体について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
3回目	内分泌系・下垂体と松果体について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
4回目	内分泌系・甲状腺と上皮小体について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
5回目	内分泌系・膵島と副腎について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
6回目	内分泌系・副腎と性腺について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
7回目	骨格系総論・骨、関節と靱帯について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
8回目	骨格系各論・体幹の骨格について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
9回目	骨格系各論・頭蓋の骨格について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
10回目	骨格系各論・上肢の骨格について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
11回目	骨格系各論・下肢の骨格について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
12回目	骨格筋系総論について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
13回目	骨格筋系総論について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
14回目	骨格筋系各論・頭頸部の筋について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
15回目	1学期定期試験と解説

準備学習 時間外学習	(目標①) 前提:この授業を受けるには、解剖学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する生理学、運動学等の関連領域についての理解も深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。
---------------	--

評価方法	1. 定期試験 (100%)	評価方法はGPA制度となります
	2. 小テスト (%)	100~90点 S
	3. レポート (%)	89~80点 A
	4. 課題成果 (%)	79~70点 B
	5. 実地試験 (%)	69~60点 C 59点以下 F 不合格

受講生へのメッセージ	正常な人体の構造を学ぶ解剖学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。 いよいよ、最終学年となり国家試験に合格できるよう万全の体制で臨みましょう。
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:全国柔道整復学校協会監修、岸 清・石塚 寛編「解剖学」医歯薬出版、2017

名古屋医健スポーツ専門学校 2024年度 シラバス

科目名 (英)	解剖学Ⅲ (AnatomyⅢ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	熊本 賢三
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	2学期
コース	I 部・II 部			(単位)	(3)	曜日・時限	金曜日 2・3限

【授業の学習内容】

柔道整備学の基礎となる人体の生命現象と正常機能をおこなうにあたって必要とされる人体の正常な構造の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。特に神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能がいかなる構造によって可能となっているかの概念を習得し、本授業終了時には人体の正常な構造について説明ができるようになる。

※実務経験

担当教員は解剖学専攻で医学博士を取得し、大学に席を置いて専門学校や高等学校で解剖学、解剖生理学40年に渡り教育し、人体解剖実習の成果として「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」を北村清一郎先生と編集し、南江堂より出版した。

【到達目標】

人体解剖学の基本的体系を習得し人体の正常構造について習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の各種機能をおこなうにあたっての人体の構造を体系的に説明できる。

授業計画・内容

1回目	骨格筋系各論・背部と腹部の筋について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
2回目	骨格筋系各論・上肢の筋について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
3回目	骨格筋系各論・上肢の筋について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
4回目	骨格筋系各論・下肢の筋について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
5回目	骨格筋系各論・下肢の筋について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
6回目	神経系総論について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
7回目	神経系各論・中枢神経系について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
8回目	神経系各論・中枢神経系について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
9回目	神経系各論・中枢神経系と末梢神経系について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
10回目	神経系各論・末梢神経系について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
11回目	神経系各論・末梢神経系について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
12回目	神経系各論・末梢神経系について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
13回目	感覚器総論と各論・視覚器について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
14回目	感覚器総論と各論・視覚器と味覚器について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
15回目	2学期定期試験と解説

準備学習 時間外学習	(目標①) 前提: この授業を受けるには、解剖学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する生理学、運動学等の関連領域についての理解も深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。		
評価方法	1. 定期試験 (100%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F 不合格	

受講生へのメッセージ	正常な人体の構造を学ぶ解剖学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。 いよいよ、最終学年となり国家試験に合格できるよう万全の体制で臨みましょう。
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:全国柔道整復学校協会監修、岸 清・石塚 寛編「解剖学」医歯薬出版、2017

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	解剖学Ⅲ (AnatomyⅢ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	熊本 賢三
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	3学期
コース	I 部・II 部			(単位)	(3)	曜日・時限	金曜日 2・3限

【授業の学習内容】

柔道整備学の基礎となる人体の生命現象と正常機能をおこなうにあたって必要とされる人体の正常な構造の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。特に神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能がいかなる構造によって可能となっているかの概念を習得し、本授業終了時には人体の正常な構造について説明ができるようになる。

※実務経験

担当教員は解剖学専攻で医学博士を取得し、大学に席を置いて専門学校や高等学校で解剖学、解剖生理学40年に渡り教育し、人体解剖実習の成果として「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」を北村清一郎先生と編集し、南江堂より出版した。

【到達目標】

人体解剖学の基本的体系を習得し、人体の正常構造について習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の各種機能をおこなうにあたっての人体の構造を体系的に説明できる。

授業計画・内容

1回目	感覚器総論と各論・聴覚器と平衡覚器について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
2回目	感覚器総論と各論・皮膚と痛覚について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
3回目	脈管系総論と各論・心臓について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
4回目	脈管系各論・心臓と動脈系について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
5回目	脈管系各論・動脈系と静脈系について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
6回目	脈管系各論・静脈系とリンパ系について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
7回目	消化器系総論と各論・口腔～食道について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
8回目	消化器系総論と各論・胃～直腸について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
9回目	消化器系総論と各論・肝臓と膵臓について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
10回目	呼吸器系総論と各論・気道について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
11回目	呼吸器系各論・肺について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
12回目	男性性生殖器官について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
13回目	女性性生殖器官について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
14回目	女性性生殖器官について理解し、国家試験問題が解答できるようになる
15回目	3学期定期試験と解説

準備学習 時間外学習	(目標①) 前提:この授業を受けるには、解剖学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する生理学、運動学等の関連領域についての理解も深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。		
評価方法	1. 定期試験 (100%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F 不合格	

受講生へのメッセージ	正常な人体の構造を学ぶ解剖学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。 いよいよ、最終学年となり国家試験に合格できるよう万全の体制で臨みましょう。
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:全国柔道整復学校協会監修、岸 清・石塚 寛編「解剖学」医歯薬出版、2017

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	生理学Ⅱ (Physiology Ⅱ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	糟谷 圭吾
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	Ⅰ学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・水曜日 Ⅰ・4限

【授業の学習内容】

人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解特に 等の生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、本授業終了時には各々の生理学的機能について説明ができるようになる。

※実務者経験

1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における全身管理業務に従事。

【到達目標】

人体生理学の基本的体系を知り、人体の正常機能についての原則を習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系による調節機構（ホメオスタシス）、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等について網羅的に説明できる。

授業計画・内容

1回目	腎臓の構造と機能 腎小体 尿細管 血管系 について説明できる
2回目	尿の生成 糸球体での濾過 尿細管での再吸収 について説明できる
3回目	尿細管での分泌 尿の成分 について説明できる
4回目	腎血流量と尿量の変化 について説明できる
5回目	クリアランスによる腎機能の測定 について説明できる
6回目	排尿に関わる筋 蓄尿と排尿と神経支配 について説明できる
7回目	腎臓による体液の調節 ホルモンによる調節 飲水での調節 pHの調節 について説明できる
8回目	泌尿器系の生理学のまとめ 国家試験問題演習
9回目	生体に必要な栄養素 ①糖質 ②蛋白質 について説明できる
10回目	生体に必要な栄養素 ③脂質 ④ミネラル について説明できる
11回目	生体に必要ない要素 ⑤ビタミン 脂溶性ビタミン 水溶性ビタミン について説明できる
12回目	エネルギー代謝 ATPの構造と働き ATPの生成 について説明できる
13回目	栄養素の代謝 糖質、蛋白質、脂質 について説明できる
14回目	食物と栄養 エネルギー代謝量の測定法 基礎代謝 について説明できる
15回目	栄養と代謝の生理学のまとめ 国家試験問題演習

準備学習 時間外学習	(目標①) 前提: この授業を受けるには、1 生理学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する解剖学、運動学等の関連領域についての理解も深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。
---------------	--

評価方法	1. 定期試験 (100%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	講義 視聴覚機器利用

受講生へのメッセージ	これまでの学習により種々の生命現象が個体全体として、ひとつのシステムに見事に統合されていることが十分に理解できることでしょう。最終学年では、その理解をもとに、病態との関係などについても考察していきます。 また、国家試験において確実に合格点を得られるよう学習を深めたいと思います。 毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

「生理学」第4版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	生理学Ⅱ (Physiology Ⅱ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	糟谷 圭吾
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	2学期
コース	I部・II部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・水曜日 1・4限

【授業の学習内容】

人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解特に 等の生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、本授業終了時には各々の生理学的機能について説明ができるようになる。

※実務者経験

1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における全身管理業務に従事。

【到達目標】

人体生理学の基本的体系を知り、人体の正常機能についての原則を習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系による調節機構（ホメオスタシス）、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等について網羅的に説明できる。

授業計画・内容

1回目	消化器系の構成と働き 機械的消化 化学的消化 消化管壁の微細構造 について説明できる
2回目	消化管運動 消化液分泌 神経機序 体液性機序 について説明できる
3回目	食物の流れの時間経過 について説明できる
4回目	口腔 咀嚼 唾液の分泌 嚥下 について説明できる
5回目	胃の運動 胃液の成分と働き 分泌のしくみ について説明できる
6回目	小腸と大腸 消化 吸収 胆汁 腸液 大蠕動 排便反射 について説明できる
7回目	肝臓 栄養素の代謝 解毒作用 胆汁の産生 について説明できる
8回目	糖質 蛋白質 脂質の 消化と吸収 について説明できる
9回目	食物繊維 ビタミン、ミネラルの吸収 消化器系の生理学のまとめ 国家試験問題演習
10回目	体温の温度分布 体温の生理的変動 について説明できる
11回目	熱産生 ふるえ 菲ふるえ熱産生 について説明できる
12回目	熱放散の生理学的しくみ について説明できる
13回目	体温調節 行動性体温調節 自律性体温調節 体温調節中枢 について説明できる
14回目	気候順化 暑熱順化 寒冷順化 発熱とうつ熱 について説明できる
15回目	体温の生理学のまとめ 国家試験問題演習

準備学習 時間外学習	(目標①) 前提: この授業を受けるには、生理学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する解剖学、運動学等の関連領域についての理解も深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。
---------------	---

評価方法	1. 定期試験 (100%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)
------	--

評価方法はGPA制度となります

100～90点	S
89～80点	A
79～70点	B
69～60点	C
59点以下	F不合格

講義 視聽覺機器利用

受講生へのメッセージ	これまでの学習により種々の生命現象が個体全体として、ひとつのシステムに見事に統合されていることが十分に理解できることでしょう。最終学年では、その理解をもとに、病態との関係などについても考察していきます。 また、国家試験において確実に合格点を得られるよう学習を深めたいと思います。 毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

「生理学」第4版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	生理学Ⅱ (Physiology Ⅱ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	糟谷 圭吾
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	3学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・水曜日 1・4限

【授業の学習内容】

人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解特に 等の生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、本授業終了時には各々の生理学的機能について説明ができるようになる。

※実務者経験

1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における全身管理業務に従事。

【到達目標】

人体生理学の基本的体系を知り、人体の正常機能についての原則を習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系による調節機構（ホメオスタシス）、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等について網羅的に説明できる。

授業計画・内容	
---------	--

1回目	内分泌の生理学 細胞間の情報伝達の種類 内分泌腺の種類 ホルモン分類 について説明できる
2回目	ホルモン分泌の調節 ホルモン作用機序 ホルモン作用 について説明できる
3回目	視床下部のホルモン 下垂体前葉のホルモン について説明できる
4回目	下垂体後葉のホルモン 甲状腺のホルモン 副甲状腺のホルモン について説明できる
5回目	副腎皮質のホルモン 副腎髄質のホルモン 腎臓のホルモン 膵臓のホルモン について説明できる
6回目	精巣のホルモン 卵巣のホルモン ホルモンによる内部環境の恒常性機序 について説明できる
7回目	性分化 生殖器と脳の胎生期における性分化 について説明できる
8回目	思春期に現れるからだの性差 男性生殖器の構造と機能 精子形成 勃起と射精 について説明できる
9回目	女性生殖器の構成 性周期 について説明できる
10回目	妊娠と分娩 受精 着床 妊娠 について説明できる
11回目	胎盤の形成と機能 について説明できる
12回目	分娩と乳汁分泌 について説明できる
13回目	生殖の生理学のまとめ 国家試験問題演習
14回目	国家試験類題演習(鍼灸師国試) (あん摩マッサージ師国試)
15回目	柔道整復師国家試験 予想問題演習

準備学習 時間外学習	(目標①) 前提:この授業を受けるには、生理学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する解剖学、運動学等の関連領域についての理解も深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。
---------------	--

評価方法	1. 定期試験 (100%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F 不合格	講義 視聴覚機器利用
------	--	---	------------

受講生へのメッセージ	これまでの学習により種々の生命現象が個体全体として、ひとつのシステムに見事に統合されていることが十分に理解できることでしょう。最終学年では、その理解をもとに、病態との関係などについても考察していきます。 また、国家試験において確実に合格点を得られるよう学習を深めたいと思います。 毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

「生理学」第4版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	病理学Ⅱ (Pathology)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	蒲 貞行
学科	柔整	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45 (3)	開講区分	1学期
コース	I部・Ⅱ部					曜日・時限	火曜日 2・3限

【授業の学習内容】

担当教員は、臨床検査技師資格(1970年)、日本臨床細胞学会認定の細胞検査士資格、博士(保健学)の称号を持ち、日本臨床細胞学会技師賞の受賞歴がある。
1970年に愛知県対がん協会に入職後、愛知県がんセンター病院～愛知県総合保健センター臨床検査部で病理学、細胞診、血液学、生化学、生理学などの検査に従事した。2004～2015年に群馬大学大学院保健学研究科(准教授)で病理学、細胞診断学の講義と実習、細胞検査士の育成に従事した。その後群馬パース大学と中部大学の客員教授としての教鞭をとった。
病理学概論の講義は前橋東洋医学専門学校(2006～2014年)、2015年より本学で担当している。
病理学は医学の基礎を成す学問であり、その内容は深く広範である。担当教員の上記経験を踏まえ、医療人として修得が望まれる病理学的知識を教授する。授業内容は、国家試験に十分対応できる理解力の養成を主眼として教授する。

【到達目標】 【病理学概論Ⅰ：第8章～10章】及び【病理学概論Ⅱ】を講義し、病理学の理解を深める。

医療人を志す者にとって、病理学は基本的な学問である。病理学概論では、広く疾病の分類と定義、原因と成り立ち、発生頻度、症状、死など様々な疾病の理解を深める。病理学概論で学ぶ知識は、国家試験での他の学科(一般臨床医学など)でも頻出されており、解剖学、生理学などと共に横断的な理解に役立つよう努める。

授業計画・内容

1回目	【9章】先天性異常(1) [遺伝病、染色体異常、奇形の環境要因、などを修得する]
2回目	先天性異常(2) [主な先天奇形、などを修得する] ～ 【第10章】病因(1) [内因と外因(栄養障害)、などを修得する]
3回目	病因(2) [外因(物理的外因・化学的外因)、薬物耐性菌、などを修得する]
4回目	病因(3) [日和見感染、菌交代現象、感染経路、などを修得する]
5回目	病因(4) [急性腎不全、ショック、貧血、ライソゾーム病、などを修得する]
6回目	【第8～10章中間試験】
7回目	【中間試験解説】 ■【病理学概論総括編】疾病の一般 ※過去問集Part 2を併用し知識の修得を深める [問題1～8]
8回目	細胞障害(退行変性) ※過去問集の併用 [問題9～21]
9回目	循環障害 ※過去問集の併用 [問題22～37]
10回目	循環障害 ※過去問集の併用 [問題38～54]
11回目	循環障害 ※過去問集の併用 [問題55～71]
12回目	進行性病変 ※過去問集の併用 [問題72～87]
13回目	炎症 ※過去問集の併用 [問題88～98]
14回目	免疫異常とアレルギー(1) ※過去問集の併用 [問題99～113]
15回目	免疫異常とアレルギー(2) ※過去問集の併用 [問題114～131]
16回目	腫瘍(1) ※過去問集の併用 [問題132～146]
17回目	腫瘍(2) ※過去問集の併用 [問題147～162]
18回目	先天性異常 ※過去問集の併用 [問題163～176]
19回目	病因(1) ※過去問集の併用 [問題177～191]
20回目	病因(2) ※過去問集の併用 [問題192～207]
21回目	病因(3) ※過去問集の併用 [問題208～223]
22回目	【期末試験】 ※「病理学概論総括編」から要点を踏まえて出題し、国試形式で実施する。
23回目	【期末解説】

準備学習
時間外学習
担当教員による配布テキストは、国家試験に対応できる知識の理解に配慮して準備された内容となっている。事前にその資料の一読が望ましい。また、授業後には、授業で担当教員が強調した点を中心に要点を整理し、国家試験問題の解答を試みるのも理解の習得に効果的である。

評価方法	【中間試験】：本試験(80点)＋小テスト(20点) 【期末試験】本試験(100点) 【総合評価】：中間試験と期末試験の平均点で評価する	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	【病理学概論Ⅰ】各章の終了毎に確認小テストを実施し、中間試験得点を80点＋確認小テストを20点の比率で評価する。【病理学概論Ⅱ】では、Part2講義終了後の期末試験を100点満点として評価する。【3学年の総合評価】は、中間試験と期末試験の平均点で評価する。試験はマークシート形式で行う。
------	---	--	---

受講生への
メッセージ
人生、とくに医療人としての人生は生涯学びである。私は、受講生の皆さんが「人生、日々一切が生命現象の探究であり、そのことを通して人間性を磨くことである」との思いを持って教授する。ぜひ授業だけでなく、日常生活でのすべてに於いて、「いのちと人間の理解」につながる「学ぶ心」を身につけて頂きたい。病理学では、様々な分類が用いられているので、それぞれの疾病、用語の理解をしっかりと習得して頂きたい。

【使用教科書・教材・参考書】

病理学概論 (第3版) 医歯薬出版株式会社、担当教員による配布テキストおよび国家試験過去問集(Part 1&2)

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	リハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	松田 輝
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	45	開講区分	2学期
コース	I 部・II 部			(単位)	(3)	曜日・時限	月曜日 2・3限 火曜日 1・4限

【授業の学習内容】

柔道整復師の日常業務に必要な知識および国家試験対策を中心とした授業を展開する。過去の国家試験出題実績から予想される国家試験問題に回答できる知識を習得する。

実務経験（松田）：2000年に免許を取得し、実務者経験は3年で、総合病院（急性期～回復期）に勤務する。主業務は、脳血管障害や整形疾患の術後リハビリテーションを行っていた。また、非常勤で、約8年間、総合病院、整形外科に勤務する。大学で理学療法学の教育・研究に15年以上従事。

【到達目標】

柔道整復師の日常業務に必要な知識を修得する。
他の医療関連職種との連携に必要な知識を修得する。

授業計画・内容	
---------	--

1回目	第1章「リハビリテーションの理念」について説明できる。
2回目	第2章「リハビリテーションの対象と障害者の実態」について説明できる。
3回目	第3章「障害の階層とアプローチ」について説明できる。
4回目	第4章「リハビリテーション評価学」A 機能解剖～D ADLの評価について説明できる。
5回目	第4章「リハビリテーション評価学」E 心理的評価～I 運動失調について説明できる。
6回目	第5章「リハビリテーション障害学と治療学」A'リハビリテーション障害学(末梢神経系)について説明できる。
7回目	第5章「リハビリテーション障害学と治療学」A'リハビリテーション障害学(中枢神経系)について説明できる。
8回目	第5章「リハビリテーション障害学と治療学」B'リハビリテーション治療学について説明できる。
9回目	第6章「リハビリテーション医学と関連職種」について説明できる。
10回目	第7章「リハビリテーション治療技術」A理学療法～B作業療法について説明できる。
11回目	第7章「リハビリテーション治療技術」C言語聴覚療法～D補装具について説明できる。
12回目	第1章～第7章までの総復習 中間試験
13回目	第1章～第7章までの解説 中間試験の解説
14回目	第8章「高齢者のリハビリテーション」A健康寿命～Iパーキンソン病について説明できる。
15回目	第8章「高齢者のリハビリテーション」J脳卒中について説明できる。
16回目	第9章「運動器のリハビリテーション」A骨折～C捻挫について説明できる。
17回目	第9章「運動器のリハビリテーション」D上肢損傷後症候群～F頸肩腕症候群について説明できる。
18回目	第9章「運動器のリハビリテーション」G腰痛症～Iアキレス腱断裂について説明できる。
19回目	第10章「リハビリテーションと福祉」について説明できる。
20回目	第11章「障害者スポーツ」について説明できる。
21回目	「脊髄損傷、脳性麻痺」について説明できる。
22回目	第8章～第11章までの総復習 期末試験
23回目	第8章～第11章までの解説 期末試験の解説

準備学習 時間外学習	毎回の予習として教科書の該当ページを通読しておくこと。授業後は、配布したプリントや教科書の復習をすること。		
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験(100%)

リハビリテーション医学は、他の科目の教科書に関連する記述が多数掲載されているため、取っつきにくさを感じる学生が多数いる科目です。しかし、各科目間に共通するキーワードに注目し、横断的に知識を理解できるようにすれば、決して難しい科目ではありません。

今まで学習してきた知識をフル活用して、各科目の関連性について見つけ出していきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:柔道整復学校協会監修『リハビリテーション医学(改訂第4版)』南江堂 材:授業中にプリントを配布するのでファイルすること
参考書:他の科目の教科書一式(授業中に具体的な教科書、ページを明示する)

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	必修選択	必修	年次	3	担当教員	杉山 文枝
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	45	開講区分	Ⅰ学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	水曜日 2・3限
【授業の学習内容】							
衛生学・公衆衛生学では、働く人の健康や衛生行政、保健医療の制度などを学びます。 ※実務経験 1980～2004年杉山歯科医院で歯科診療 2005年～京都医健スポーツ専門学校 2013年～名古屋医健スポーツ専門学校							
【到達目標】							
柔道整復師としてだけでなく、医療従事者として必要な知識を身に付けることができる。							
授業計画・内容							
1回目	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動 について理解し、説明出来るようになる			16回目	生行政の考え方について理解し、説明出来るようになる。		
2回目	保健教育 について理解し、説明出来るようになる。			17回目	療保険制度の概要について理解し、説明出来るようになる。		
3回目	産業保健の目的について理解し、説明出来るようになる。			18回目	療の安全の確保について理解し、説明出来るようになる。		
4回目	職業病とその対策について理解し、説明出来るようになる。			19回目	医療事故の防止について理解し、説明出来るようになる。		
5回目	場における健康保持事業について理解し、説明出来るようになる。			20回目	集団の健康状態の把握について理解し、説明出来るようになる。		
6回目	生活習慣病について理解し、説明出来るようになる。			21回目	分析疫学について理解し、説明出来るようになる。		
7回目	高齢者福祉について理解し、説明出来るようになる。			22回目	総まとめを行い、3学期講義内容を説明出来るようになる		
8回目	精神の病気：統合失調症について理解し、説明出来るようになる。			23回目	総復習を行い、3学期講義内容を修得する。		
9回目	発達障害について理解し、説明出来るようになる。						
10回目	その他の精神障害について理解し、説明出来るようになる。						
11回目	国際協力と世界保健機関について理解し、説明出来るようになる。						
12回目	地域保健とはについて理解し、説明出来るようになる。						
13回目	総まとめを行い、2学期講義内容を説明出来るようになる。						
14回目	総まとめを行い、2学期講義内容を説明出来るようになる。						
15回目	総復習を行い、2学期講義内容を修得する。						
準備学習 時間外学習	プリントを使い説明します。板書もするので復習してください。						
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)		評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格		定期試験100%		
受講生へのメッセージ	自分で教科書を読んで理解するのは大変なことなので、しっかり授業に参加してください分からないことはそのままにせず質問してください						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書：南江堂「衛生学・公衆衛生学」改定第6版							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	柔道整復学Ⅴ (Judo Therapy Ⅴ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	山口 智一
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	Ⅰ学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・土曜日 Ⅰ・4限
【授業の学習内容】							
国家試験の出題基準である患者の権利、医療過誤とリスクマネジメント、柔道、関係法規（柔道整復師法、医療法、医師法等）、国民医療費、各骨折・脱臼・軟部組織損傷を学んでいく。 ※実務経験 7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。							
【到達目標】							
国家試験の必修問題の内容を中心に習得させていく。 【具体的な目標】 ①国家試験の必修問題の出題基準である各内容を説明できる ②国家試験の必修問題が解答できるよう習得させる。							
授業計画・内容							
1回目	ガイダンス、患者の権利について説明ができる						
2回目	患者の権利、医療過誤とリスクマネジメントについて説明ができる						
3回目	柔道（歴史、理念、審判規定、礼法、受け身）について説明ができる						
4回目	患者の権利～柔道までを理解する						
5回目	柔道整復師法について説明ができる						
6回目	柔道整復師法について説明ができる						
7回目	医療法、医師法について説明ができる						
8回目	その他医療従事者の関係法規について説明ができる						
9回目	国民医療費について説明ができる						
10回目	柔道整復師法～国民医療費までを理解する						
11回目	定型的鎖骨骨折（診察・整復）について説明ができる						
12回目	定型的鎖骨骨折（固定）について説明ができる						
13回目	上腕骨外科頸外転型骨折（診察・整復・固定法）について説明ができる						
14回目	総復習し、講義の総括について説明できる						
15回目	総復習し、講義の総括について説明できる						
準備学習 時間外学習	【予習】シラバスを見て事前に予習できる内容であればその範囲の教科書を熟読し、わからない内容は調べておく。 【復習】講義で学んだ内容をノートにまとめ復習しておく。						
評価方法	1. 定期試験（100％） 2. 小テスト（％） 3. レポート（％） 4. 課題成果（％） 5. 実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格					
受講生へのメッセージ	国家試験の出題基準が変更となり、学習内容が増えましたが、ポイントをしっかりと抑えて国家試験合格できるようにしていきます。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書：柔道整復学理論編第7版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂）、関係法規（医歯薬出版株式会社）、配布資料							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復学Ⅴ (Judo Therapy Ⅴ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	山口 智一
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	2学期
コース	I部・II部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・土曜日 1・4限

【授業の学習内容】

国家試験の出題基準である患者の権利、医療過誤とリスクマネジメント、柔道、関係法規（柔道整復師法、医療法、医師法等）、国民医療費、各骨折・脱臼・軟部組織損傷を学んでいく。

※実務経験

7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。

【到達目標】

国家試験の必修問題の内容を中心に習得させていく。

【具体的な目標】

- ① 国家試験の必修問題の出題基準である各内容を説明できる
② 国家試験の必修問題が解答できるよう習得させる。

授業計画・内容	
---------	--

1回目	上腕骨骨幹部骨折三角筋付着部より遠位骨折(固定)について説明ができる
2回目	コーレス骨折(診察・整復)について説明ができる
3回目	コーレス骨折(固定)について説明ができる
4回目	第5中手骨頸部骨折(固定)について説明ができる
5回目	肋骨骨折(固定)について説明ができる
6回目	上腕骨骨幹部骨折～肋骨骨折まで理解できる
7回目	肩鎖関節上方脱臼(診察・整復)について説明ができる
8回目	肩鎖関節上方脱臼(固定)について説明ができる
9回目	肩関節烏口下脱臼(診察・整復)について説明ができる
10回目	肩関節烏口下脱臼(固定)について説明ができる
11回目	肘関節後方脱臼(診察・整復)について説明ができる
12回目	肘関節後方脱臼(固定)について説明ができる
13回目	肘内障(診察・整復)について説明ができる
14回目	総復習し、講義の総括について説明できる
15回目	総復習し、講義の総括について説明できる

	【予習】シラバスを見て事前に予習できる内容であればその範囲の教科書を熟読し、わからない内容は調べておく。 【復習】講義で学んだ内容をノートにまとめ復習しておく。
--	--

評価方法	1. 定期試験 (100%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F 不合格
------	--	---

国家試験の出題基準が変更となり、学習内容が増えましたが、ポイントをしっかり抑えて国家試験合格できるようにしていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:柔道整復学理論編第7版(南江堂)、柔道整復学実技編第2版(南江堂)、関係法規(医歯薬出版株式会社)、配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅲ (Clinical Judo TherapyⅢ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	小島 一政
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	3学期
コース	I 部・II 部			(単位)	(6)	曜日・時限	木曜日 1・4限

【授業の学習内容】

国家試験対策として、整形外科、柔整理論、柔整実技（必修問題対策）などを学んでいく。

※実務経験

【到達目標】	
--------	--

国家試験の整形外科、必修問題の内容を中心に習得させていく。

【具体的な目標】

- ②国家試験の必修問題が解答できるよう習得させる。

授業計画・内容

1回目	6. 下腿骨骨折の診察、固定について説明ができる
2回目	7. 肩鎖関節脱臼の診察、整復、固定について説明ができる
3回目	8. 肩関節脱臼の診察、整復、固定について説明ができる
4回目	9. 肘関節脱臼の診察、整復、固定について説明ができる
5回目	10. 第2指PIP関節背側脱臼の診察。整復、固定について説明ができる
6回目	11. 大腿の肉離れの診察、検査について説明ができる
7回目	12. 膝関節半月板損傷の診察、検査について説明ができる
8回目	13. 膝関節側副靭帯損傷の診察、検査、固定について説明ができる
9回目	14. 膝関節十字靭帯損傷の診察、検査について説明ができる
10回目	15. アキレス腱断裂の診察、固定について説明ができる
11回目	16. 足関節外側靭帯損傷の診察、検査、固定について説明ができる
12回目	まとめを行い今までの内容を理解する
13回目	まとめを行い今までの内容を理解する
14回目	総復習、期末試験
15回目	試験解説

準備学習 時間外学習	【予習】シラバスを見て事前に予習できる内容であればその範囲の教科書を熟読し、わからない内容は調べておく。 【復習】講義で学んだ内容をノートにまとめ復習しておく。
---------------	--

評価方法	1. 定期試験 (50%)	評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F 不合格
	2. 小テスト (50%)	
	3. レポート (%)	
	4. 課題成果 (%)	
	5. 実地試験 (%)	

受講生への メッセージ	国家試験の出題基準が変更となり、学習内容が増えましたが、ポイントをしっかり抑えて国家試験合格できるようにしていきましょう。
----------------	---

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:柔道整復学理論編第6版(南江堂)、柔道整復学実技編第2版(南江堂)、関係法規2020年度版(医歯薬出版株式会社)配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅳ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小泉 直子
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	90	開講区分	I 学期
コース	I 部・II 部			(単位)	(6)	曜日・時限	火曜日 I・4限
【授業の学習内容】							
基礎医学から臨床医学を考えることにより、暗記で症状を覚えるなどを避け、疾患や症状の理解をすることが、柔道整復師として患者さんに接する際に必要 な知識となります。例えば患者さんに愛護的な姿勢で施術するなど、臨床医学で学んだことを説明しながら実践できるようにします。 ※柔道整復師専科教員資格							
【到達目標】							
臨床では外傷で来院しても、実際には他に様々な疾患を持つ患者が来院する事が多い。特に多く出会う循環器、呼吸器、神経疾患に対して、一般臨床や外 科で習得した知識を元に、患者と接した際に必要な対応ができるようにする。 [具体的な到達目標] 目標①それぞれの疾患に対して説明ができるようにする。 目標②それぞれの疾患を持つ患者に対して、柔道整復師が外傷で携わる際により愛護的に接することができるようにする。 目標③業務範囲外の外症例であった場合に速やかに医療機関に送る判断ができるようにする。							
授業計画・内容							
1回目	組織の概要、創傷の治癒、胸郭の変形、マルファン症候群について説明できる						
2回目	体位・姿勢、異常呼吸、糖尿病の合併症、pHとアシドーシス、アルカローシス、四肢の変形について説明できる						
3回目	チアノーゼ、打診、肺の聴診、呼吸音、異常呼吸音、熱型、スパイログラムについて説明できる						
4回目	残気、肺活量と一秒率、拘束・閉塞性換気障害、間質性肺炎、膠原病について説明できる						
5回目	上気道炎、肺炎、感染症と感染経路、消毒について説明できる						
6回目	肺結核、抗酸菌、免疫グロブリンについて説明できる						
7回目	気管支喘息、I 型アレルギー、自律神経について説明できる						
8回目	COPD、腫瘍について説明できる						
9回目	肺癌の分類と症状について説明できる						
10回目	肺癌の腫瘍随伴症候群、内分泌疾患について説明できる						
11回目	気胸、肺血栓塞栓症、深部静脈血栓症について説明できる						
12回目	復習、期末試験						
13回目	試験解説						
14回目	心臓の聴診、脈拍、血圧測定、心臓の栄養血管について説明できる						
15回目	うっ血性心不全、膠質浸透圧、浮腫、RAA系について説明できる						
準備学習 時間外学習	この授業を受けるには、解剖学、生理学、病理学などの基礎医学の知識を元にした一般臨床医学や外科学の理解が必要です。また、柔道整復学 の理解がなければ、どのような外傷で特に注意が必要かも分からなくなります。これらの予習を行い授業に臨むようにして下さい。また、理解を深 めるために、復習を欠かさないで下さい。						
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)			定期試験 100%			
受講生への メッセージ	柔道整復師が接する患者さんの中には、内蔵疾患や重度の神経疾患等の病気を持っている方もいらっしゃいます。また、業務範囲外の場合もあり ます。このような方々は自分の病気に詳しいことも多いですが、さらに様々な質問もしてきます。病気を知ることによって、どこまで柔道整復師として 関わられるかを見極める能力を養って下さい。						
【使用教科書・教材・参考書】							
プリント、一般臨床医学教科書、外科学概論教科書、柔道整復学理論編教科書、カラー人体解剖学							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅳ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小泉 直子
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	90	開講区分	2学期
コース	I 部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	火曜日 Ⅰ・4限
【授業の学習内容】							
基礎医学から臨床医学を考えることにより、暗記で症状を覚えるなどを避け、疾患や症状の理解をすることが、柔道整復師として患者さんに接する際に必要な知識となります。例えば患者さんに愛護的な姿勢で施術するなど、臨床医学で学んだことを説明しながら実践できるようにします。 ※柔道整復師専科教員資格							
【到達目標】							
臨床では外傷で来院しても、実際には他に様々な疾患を持つ患者が来院する事が多い。特に多く出会う循環器、呼吸器、神経疾患に対して、一般臨床や外科で習得した知識を元に、患者と接した際に必要な対応ができるようにする。 [具体的な到達目標] 目標①それぞれの疾患に対して説明ができるようにする。 目標②それぞれの疾患を持つ患者に対して、柔道整復師が外傷で携わる際により愛護的に接することができるようにする。 目標③業務範囲外の症例であった場合に速やかに医療機関に送る判断ができるようにする。							
授業計画・内容							
1回目	動脈硬化症、脂質異常症、肥満症、メタボリック症候群、高尿酸血症、痛風について説明できる						
2回目	虚血性心疾患、心電図について説明できる						
3回目	リウマチ熱、心臓弁膜症について説明できる						
4回目	ファロー四徴症、高血圧、大動脈瘤、大動脈解離、末梢動脈疾患、バージャー病について説明できる						
5回目	ショック、中枢神経の灰白質とグリア細胞について説明できる						
6回目	シナプス、上位と下位運動ニューロン、麻痺、歩行異常について説明できる						
7回目	大脳基底核、小脳の解剖生理、異常運動について説明できる						
8回目	反射、筋トーンの異常について説明できる						
9回目	脳血管の解剖生理、脳梗塞について説明できる						
10回目	脳出血、脳振盪について説明できる						
11回目	認知症、てんかんについて説明できる						
12回目	筋萎縮性側索硬化症、球麻痺について説明できる						
13回目	パーキンソン病、重症筋無力症について説明できる						
14回目	復習、期末試験						
15回目	試験解説						
準備学習 時間外学習	この授業を受けるには、解剖学、生理学、病理学などの基礎医学の知識を元にした一般臨床医学や外科学の理解が必要です。また、柔道整復学の理解がなければ、どのような外傷で特に注意が必要かも分からなくなります。これらの予習を行い授業に臨むようにして下さい。また、理解を深めるために、復習を欠かさないで下さい。						
評価方法	1. 定期試験(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格		定期試験100%			
受講生への メッセージ	柔道整復師が接する患者さんの中には、内蔵疾患や重度の神経疾患等の病気を持っている方もいらっしゃいます。また、業務範囲外の場合もあります。このような方々は自分の病気に詳しいことも多いですが、さらに様々な質問もしてきます。病気を知ることによって、どこまで柔道整復師として関わられるかを見極める能力を養って下さい。						
【使用教科書・教材・参考書】 プリント、一般臨床医学教科書、外科学概論教科書、柔道整復学理論編教科書、カラー人体解剖学							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅳ (Clinical Judo TherapyⅣ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	山口 智一
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	3学期
コース	I 部・II 部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・土曜日 1・4限

【授業の学習内容】

国家試験の出題基準である患者の権利、医療過誤とリスクマネジメント、柔道、関係法規（柔道整復師法、医療法、医師法等）、国民医療費、各骨折・脱臼・軟部組織損傷を学んでいく。

※実務経験	
-------	--

7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。

【到達目標】

国家試験の必修問題の内容を中心に習得させていく。

【具体的な目標】

- ① 国家試験の必修問題の出題基準である各内容を説明できる
② 国家試験の必修問題が解答できるよう習得させる。

授業計画・内容	
---------	--

1回目	示指PIP関節背側脱臼（固定）、肩腱板損傷（診察）について説明ができる
2回目	上腕二頭筋長頭腱損傷（診察）について説明ができる
3回目	大腿部打撲・肉離れ（診察）について説明ができる
4回目	膝関節内側側副靱帯損傷（診察・固定）について説明ができる
5回目	膝関節十字靱帯損傷（診察）について説明ができる
6回目	膝関節半月板損傷（診察）について説明ができる
7回目	下腿三頭筋肉離れ（診察）について説明ができる
8回目	アキレス腱断裂（固定）について説明ができる
9回目	足関節外側靱帯損傷（診察・固定）について説明ができる
10回目	下腿骨骨幹部骨折（固定）について説明ができる
11回目	包帯法について説明ができる
12回目	包帯法について説明ができる
13回目	まとめを行い今までの内容を説明できる
14回目	総復習し、講義の総括について説明できる
15回目	総復習し、講義の総括について説明できる

準備学習 時間外学習	【予習】シラバスを見て事前に予習できる内容であればその範囲の教科書を熟読し、わからない内容は調べておく。 【復習】講義で学んだ内容をノートにまとめ復習しておく。
---------------	--

評価方法	1. 定期試験 (100%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F 不合格
------	--	---

受講生への メッセージ	国家試験の出題基準が変更となり、学習内容が増えましたが、ポイントをしっかり抑えて国家試験合格できるようにしていきましょう。
----------------	---

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:柔道整復学理論編第7版(南江堂)、柔道整復学実技編第2版(南江堂)、関係法規(医歯薬出版株式会社)、配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅴ (Clinical Judo Therapy Ⅴ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	加藤 雄大
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	60	開講区分	3学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(4)	曜日・時限	月・金曜日 1・4限
【授業の学習内容】							
柔道整復理論について、総論、各論を再履修する。国家試験対策試験を行い、その基礎的知識を確認する。 ※実務経験 柔道整復専科教員免許取得							
【到達目標】							
柔道整復理論の総論、各論について理解し説明することができる。基礎的知識を身につけており、応用分野、臨床問題についても対応できる。							
授業計画・内容							
1回目	柔道整復理論 総論 骨折について理解し、説明できる		16回目	柔道整復理論 各論 上肢 軟部組織 肩について理解し、説明できる			
2回目	柔道整復理論 総論 脱臼について理解し、説明できる		17回目	柔道整復理論 各論 上肢 軟部組織 肘について理解し、説明できる			
3回目	柔道整復理論 総論 軟部組織損傷について理解し、説明できる		18回目	柔道整復理論 各論 上肢 軟部組織 手について理解し、説明できる			
4回目	柔道整復理論 総論 整復固定について理解し、説明できる		19回目	柔道整復理論 各論 上肢 軟部組織 指について理解し、説明できる			
5回目	柔道整復理論 総論 合併症 後療法について理解し、説明できる		20回目	柔道整復理論 各論 下肢 骨折 骨盤 股関節について理解し、説明できる			
6回目	柔道整復理論 各論 上肢 骨折 肩について理解し、説明できる		21回目	柔道整復理論 各論 下肢 骨折 膝について理解し、説明できる			
7回目	柔道整復理論 各論 上肢 骨折 肘について理解し、説明できる		22回目	柔道整復理論 各論 下肢 骨折 足関節 について理解し、説明できる			
8回目	柔道整復理論 各論 上肢 骨折 手について理解し、説明できる		23回目	柔道整復理論 各論 下肢 骨折 足部 足趾について理解し、説明できる			
9回目	柔道整復理論 各論 上肢 骨折 指について理解し、説明できる		24回目	柔道整復理論 各論 下肢 脱臼について理解し、説明できる			
10回目	柔道整復理論 各論 上肢 脱臼 肩について理解し、説明できる		25回目	柔道整復理論 各論 下肢 軟部組織 股関節について理解し、説明できる			
11回目	柔道整復理論 各論 上肢 脱臼 肘について理解し、説明できる		26回目	柔道整復理論 各論 下肢 軟部組織 大腿部 膝について理解し、説明できる			
12回目	柔道整復理論 各論 上肢 脱臼 手について理解し、説明できる		27回目	柔道整復理論 各論 下肢 軟部組織 足部 足趾について理解し、説明できる			
13回目	柔道整復理論 各論 上肢 脱臼 指について理解し、説明できる		28回目	上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できる			
14回目	柔道整復理論 各論 上肢 総復習について理解し、説明できる		29回目	下肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できる			
15回目	柔道整復理論 各論 上肢 復習試験		30回目	総復習 解説			
準備学習時間 外学習	各自で理解力の低い項目(成績の悪い項目)について見つめ直し、重点的に理解力の向上に努めること。						
評価方法	1. 定期試験(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	試験100%				
受講生への メッセージ	主体性を持って参加すること。 理解力の低い項目を中心に、必ず復習し、理解力の向上に努めること。						
【使用教科書・教材・参考書】		教科書全般配布資料					

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	柔道整復術適応の臨床的判断 (Clinical Judgment of Judo Therapy)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	山口 智一
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	3学期
コース	I 部・II 部			(単位)	(2)	曜日・時限	月・土曜日 2・3限
【授業の学習内容】							
国家試験の出題基準が変更され、柔道整復学に大きな比重がおかれるようになってきた。本講義では柔道整復師として必要な外傷の知識を学ぶとともに、国家試験によく出題される外傷についてを学んでいく。							
*実務経験：7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。							
【到達目標】							
柔道整復学の内容を理解し、説明できるようにしていく。							
【具体的な目標】							
①臨床現場において必要な柔道整復の外傷を説明できる。							
②国家試験の問題が解答できるよう習得させる。							
授業計画・内容							
1回目	顎関節脱臼について説明ができる						
2回目	胸骨骨折・肋骨骨折について説明ができる						
3回目	脊椎骨折について説明ができる						
4回目	脊椎骨折について説明ができる						
5回目	脊椎脱臼について説明ができる						
6回目	上肢軟部組織損傷について説明ができる						
7回目	上肢軟部組織損傷について説明ができる						
8回目	上肢軟部組織損傷について説明ができる						
9回目	下肢軟部組織損傷について説明ができる						
10回目	下肢軟部組織損傷について説明ができる						
11回目	下肢軟部組織損傷について説明ができる						
12回目	頭部・体幹軟部組織損傷について説明ができる						
13回目	頭部・体幹軟部組織損傷について説明ができる						
14回目	総復習し、講義の総括について説明できる						
15回目	総復習し、講義の総括について説明できる						
準備学習 時間外学習	【予習】 事前に教科書を熟読し、わからない単語を調べておく。 【復習】 配布した復習問題や配布資料の内容をまとめ理解を深める。						
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)		評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格				
受講生への メッセージ	国家試験の出題基準が変更となり、学習内容が増えましたが、ポイントをしっかり抑えて国家試験合格できるようにしていきます。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書：柔道整復学理論編第7版(南江堂)、柔道整復学実技編第2版(南江堂)、配布資料							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	基礎柔道整復実技Ⅲ (Basic Judo Therapeatic Lab Ⅲ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	米女 博司 森 一浩
学科	柔道整復科	授業形態	実技	総時間	90	開講区分	Ⅰ学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	木曜日 Ⅰ～4限

【授業の学習内容】

認定実技試験における固定分野の理論（固定材料、固定肢位、固定範囲、固定の目的）および実技を学ぶ。
各外傷の模擬患者に対し、固定を行うにあたり、臨床に即した手順を踏んで模擬固定を行う。1.固定材料の選択、2.患者への説明、3.助手への指示、4.固定の準備、5.固定材料の使用法、6.固定の出来栄、7.固定後の確認 授業ではそれぞれの外傷・損傷部位の局所解剖を確認し、どのような固定が効果的か考えながら行う。授業では模擬固定であるが、できる限り本物の外傷を扱っていることを考え、整備後の患部の安定、固定強度、固定による合併症を想定しながら行うことが重要である。今まで練習してきた技術をより詳細に行うことが出来るように努力すること。

※実務経験

(米女 博司) 1987年～1994年日本柔道整復専門学校附属接骨院 新ゆり整形外科非常勤で勤務

柔道整復專科教員免許取得教員

(森 一浩)2012年～2022年接骨院で勤務

柔道整復專科教員免許取得教員

【到達目標】

- ・外傷の理論を理解する。
- ・固定前・固定後の手順を理解し、準備・確認ができる。
- ・固定について患者への説明ができるようになる。
- ・助手への指示を行いながら、流れを説明できるようになる。

授業計画・内容

1回目	鎖骨骨折に対する8字帯固定法の概要を理解し、固定準備ができる
2回目	鎖骨骨折に対する8字帯固定法を習得する
3回目	上腕骨骨幹部骨折に対するミッドドルフ三角副子固定法の概要を理解し、固定準備ができる
4回目	上腕骨骨幹部骨折に対するミッドドルフ三角副子固定法を習得する
5回目	コーレス骨折に対するクラメル副子固定法の概要を理解し、固定準備ができる
6回目	コーレス骨折に対するクラメル副子固定法を習得する
7回目	第5指中手骨頸部骨折に対するアルミ副子掌側固定法の概要を理解し、固定準備ができる
8回目	第5指中手骨頸部骨折に対するアルミ副子掌側固定法を習得する
9回目	下腿骨骨幹部骨折に対するクラメル副子固定法の概要を理解し、固定準備ができる
10回目	下腿骨骨幹部骨折に対して局所副子・三角巾固定法を習得する
11回目	肋骨骨に対するさらしと厚紙副子固定法の概要を理解し、固定準備ができる
12回目	肋骨骨に対するさらしと厚紙副子固定法を習得する
13回目	肩関節前方脱臼に対する局所副子・三角巾固定法の概要を理解し、固定準備ができる
14回目	肩関節前方脱臼に対する局所副子・三角巾固定法を習得する
15回目	学期末試験及び解説

準備学習 時間外学習	各外傷の整復実技の内容を復習し、再度局所解剖や理論を理解する。 授業中に積極的に実技の練習を行うことが出来るように準備する。時間外の実技の復習が必要。
---------------	---

評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験:100%(平常点も加味する)
------	---	--	---------------------

受講生へのメッセージ	実技の授業は局所解剖を理解し、理論を理解して初めて出来るものである。基礎知識、理論の理解なしで実技を行うことは、一つのやり方をまるまる暗記することに過ぎない。各外傷の種々なケースにも対応していくためには局所解剖、柔整理論を理解し考えながら実技を行う必要がある。常に本物の外傷を扱っているイメージで実技授業に臨んでもらいたい。	
------------	---	--

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：柔道整復学理論編、柔道整復学実技編

実技バック(巻軸綿包帯(ライン帯)、腋窩枕子、テーピングなど)

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	基礎柔道整復実技Ⅲ (Basic Judo Therapeatic Lab Ⅲ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	米女 博司 森 一浩
学科	柔道整復科	授業形態	実技	総時間	90	開講区分	2学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	木曜日 1~4限

【授業の学習内容】

認定実技試験における固定分野の理論（固定材料、固定肢位、固定範囲、固定の目的）および実技を学ぶ。
各外傷の模擬患者に対し、固定を行うにあたり、臨床に即した手順を踏んで模擬固定を行う。1.固定材料の選択、2.患者への説明、3.助手への指示、4.固定の準備、5.固定材料の使用法、6.固定の出来栄、7.固定後の確認 授業ではそれぞれの外傷・損傷部位の局所解剖を確認し、どのような固定が効果的か考えながら行う。授業では模擬固定であるが、できる限り本物の外傷を扱っていることを考え、整備後の患部の安定、固定強度、固定による合併症を想定しながら行うことが重要である。今まで練習してきた技術をより詳細に行うことが出来るように努力すること。

※実務経験

(米女 博司) 1987年～1994年日本柔道整復専門学校附属接骨院 新ゆり整形外科非常勤で勤務

柔道整復專科教員免許取得教員

(森 一浩)2012年～2022年接骨院で勤務

柔道整復專科教員免許取得教員

【到達目標】

- ・外傷の理論を理解する。
- ・固定前・固定後の手順を理解し、準備・確認ができる。
- ・固定について患者への説明ができるようになる。
- ・助手への指示を行いながら、流れを説明できるようになる。

授業計画・内容	
---------	--

1回目	肩鎖関節上方脱臼に対するテーブ固定法の概要を理解し、固定準備ができる
2回目	肩鎖関節上方脱臼に対するテーブ固定法を習得する
3回目	肘関節後方脱臼のクラーメル副子・三角巾固定法の概要を理解し、固定準備ができる
4回目	肘関節後方脱臼のクラーメル副子・三角巾固定法を習得する
5回目	手第2指PIP関節背側脱臼に対するアルミ副子背側固定法の概要を理解し、固定準備ができる
6回目	手第2指PIP関節背側脱臼に対するアルミ副子背側固定法を習得する
7回目	アキレス腱断裂に対するクラーメル副子固定法の概要を理解し、固定準備ができる
8回目	アキレス腱断裂に対するクラーメル副子固定法を習得する
9回目	足関節外側靱帯損傷に対する局所副子固定法の概要を理解し、固定準備ができる
10回目	足関節外側靱帯損傷に対する局所副子固定法を習得する
11回目	膝関節内側側副靱帯損傷に対するXサポートテーブ固定法の概要を理解し、固定準備ができる
12回目	膝関節内側側副靱帯損傷に対するXサポートテーブ固定法を習得する
13回目	足関節外側靱帯損傷に対するバスケットウィーブテーブ固定法を習得する
14回目	足関節外側靱帯損傷に対するフィギュアエイト・ヒールロックテーブ固定法を習得する
15回目	学期末試験及び解説

準備学習 時間外学習	各外傷の整復実技の内容を復習し、再度局所解剖や理論を理解する。 授業中に積極的に実技の練習を行うことが出来るように準備する。時間外の実技の復習が必要。
---------------	---

評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験:100%(平常点も加味する)
------	---	--	---------------------

実技の授業は局所解剖を理解し、理論を理解して初めて出来るものである。基礎知識、理論の理解なしで実技を行うことは、一つのやり方をまるまる暗記することに過ぎない。各外傷の種々なケースにも対応していくためには局所解剖、柔整理論を理解し考えながら実技を行う必要がある。常に本物の外傷を扱っているイメージで実技授業に臨んでもらいたい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:柔道整復学理論編、柔道整復学実技編

実技バック(巻軸綿包帯(ライン帯)、腋窩枕子、テーピングなど)

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復実技Ⅲ (Clinical PracticeⅢ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	奥村 祐汰
学科	柔道整復科	授業形態	講義・演習	総時間	60	開講区分	Ⅰ学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(2)	曜日・時限	木曜日 2・3限

【授業の学習内容】

認定実技審査範囲の外傷・障害について学習する。

各外傷の模擬検査を行うにあたり、臨床に即した手順を踏んで模擬整復を行う。1、来院肢位の確認 2、発生機序の聴取 3、患部の確認 4、合併損傷の有無の確認 5、検査を実施 6、検査結果の評価 7、合併損傷の再確認授業ではそれぞれの外傷部位の局所解剖を確認し、どのような外力がどのように影響して、どのような外傷が発症するのかを考えながら模擬整復を行う。授業で行うのは模擬整復であるが、できる限り本物の外傷を扱っていることを考え、イメージしながら行うことが重要である。今まで練習してきた技術をより詳細に行うことが出来るように努力すること。

※実務経験

2014年～2020年まで接骨院と整形外科で勤務。(主業務は骨折・脱臼などの応急処置と後療法)

柔道整復専科教員免許取得教員

【到達目標】

- ・外傷部位の局所解剖を理解する。
- ・模擬整復終了までの手順を理解する。
- ・患部の確認では正確な触診ができるようになる。
- ・超音波エコーを用いて正確な評価ができるようになる。
- ・模擬整復を行う際、患者への説明、助手への指示を行いながら整復操作に説明を加えながら整復出来るようになる。

授業計画・内容

1回目	ハムストリングス損傷 - 大腿部後面の局所解剖、機能解剖を理解し、ハムストリングス損傷について理解することが出来るようになる。
2回目	ハムストリングス損傷 - ハムストリングス損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解することが出来るようになる。①
3回目	ハムストリングス損傷 - ハムストリングス損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解することが出来るようになる。②
4回目	ハムストリングス損傷の診察及び検査についてグループディスカッションをして理解を深める。
5回目	膝部損傷 - 膝関節の局所解剖、機能解剖を理解し、膝部損傷について理解することが出来るようになる。
6回目	膝関節側副靱帯損傷 - 膝関節側副靱帯損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。①
7回目	膝関節側副靱帯損傷 - 膝関節側副靱帯損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。①
8回目	膝関節側副靱帯損傷の診察及び検査についてグループディスカッションをして理解を深める。
9回目	膝関節十字靱帯靱帯損傷 - 膝関節十字靱帯靱帯損傷損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。①
10回目	膝関節十字靱帯靱帯損傷 - 膝関節十字靱帯靱帯損傷損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。②
11回目	膝関節十字靱帯靱帯損傷 - 膝関節十字靱帯靱帯損傷損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。③
12回目	膝関節十字靱帯損傷の診察及び検査についてグループディスカッションをして理解を深める。
13回目	認定実技審査出題項目を総合的に復習し、各外傷の診察及び整復（検査）を理解し出来るようになる。
14回目	学期末試験
15回目	学期末試験及び解説

準備学習 時間外学習	実技授業でにクラスメイトと模擬整復操作練習が出来るように、各外傷部位の局所解剖、整復理論をしっかりと復習すること。(局所解剖や整復理論を文字で理解することも大切であるが、実技授業では立体的視覚的に把握することが重要である。局所解剖や整復操作を描写するなどしてイメージ化する努力をする。)
---------------	---

評価方法	実地試験(100%) 出席・欠席数・授業態度 を加味して評価する	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
------	--	--

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：柔道整復理論、柔道整復実技及び配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復実技Ⅲ (Clinical PracticeⅢ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	奥村 祐汰
学科	柔道整復科	授業形態	講義・演習	総時間	60	開講区分	2学期
コース	I 部・II 部			(単位)	(2)	曜日・時限	木曜日 2・3限

【授業の学習内容】

認定実技審査範囲の外傷・障害について学習する。

各外傷の模擬検査を行うにあたり、臨床に即した手順を踏んで模擬整復を行う。1、来院肢位の確認 2、発生機序の聴取 3、患部の確認 4、合併損傷の有無の確認 5、検査を実施 6、検査結果の評価 7、合併損傷の再確認授業ではそれぞれの外傷部位の局所解剖を確認し、どのような外力がどのように影響して、どのような外傷が発症するのかを考えながら模擬整復を行う。授業で行うのは模擬整復であるが、できる限り本物の外傷を扱っていることを考え、イメージしながら行うことが重要である。今まで練習してきた技術をより詳細に行うことが出来るように努力すること。

※実務経験

2014年～2020年まで接骨院と整形外科で勤務。（主業務は骨折・脱臼などの応急処置と後療法）

柔道整復専科教員免許取得教員

【到達目標】

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・外傷部位の局所解剖を理解する。 ・模擬整復終了までの手順を理解する。 ・患部の確認では正確な触診ができるようになる。 ・超音波エコーを用いて正確な評価ができるようになる。 ・模擬整復を行う際、患者への説明、助手への指示を行いながら整復操作に説明を加えながら整復出来るようになる。 |
|--|

授業計画・内容

1回目	膝関節半月板損傷 - 膝関節半月板損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解することが出来るようになる。①
2回目	膝関節半月板損傷 - 膝関節半月板損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解することが出来るようになる。②
3回目	膝関節半月板損傷 - 膝関節半月板損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解することが出来るようになる。③
4回目	膝関節半月板損傷の診察及び検査についてグループディスカッションをして理解を深める。
5回目	下腿三頭筋肉離れ - 下腿部の局所解剖、機能解剖を理解し、下腿三頭筋肉離れについて理解することが出来るようになる。
6回目	下腿三頭筋肉離れ - 下腿三頭筋肉離れの診察の流れ、診察、検査法について理解することが出来るようになる。①
7回目	下腿三頭筋肉離れ - 下腿三頭筋肉離れの診察の流れ、診察、検査法について理解することが出来るようになる。②
8回目	下腿三頭筋肉離れの診察及び検査についてグループディスカッションをして理解を深める。
9回目	足関節外側側副靱帯損傷 - 足関節部の局所解剖、機能解剖を理解し、足関節外側側副靱帯損傷について理解することが出来る。
10回目	足関節外側側副靱帯損傷 - 足関節外側側副靱帯損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解することが出来るようになる。①
11回目	足関節外側側副靱帯損傷 - 足関節外側側副靱帯損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解することが出来るようになる。②
12回目	足関節外側側副靱帯損傷の診察及び検査についてグループディスカッションをして理解を深める。
13回目	認定実技審査試験項目を総合的に復習し、認定実技審査受験に必要な知識及び技術を修得することが出来る。
14回目	認定実技審査試験項目を総合的に復習し、認定実技審査受験に必要な知識及び技術を修得することが出来る。
15回目	認定実技審査

準備学習 時間外学習	実技授業でにクラスメイトと模擬整復操作練習が出来るように、各外傷部位の局所解剖、整復理論をしっかりと復習すること。（局所解剖や整復理論を文字で理解することも大切であるが、実技授業では立体的視覚的に把握することが重要である。局所解剖や整復操作を描写するなどしてイメージ化する努力をする。）
---------------	---

評価方法	実地試験(100%) 出席・欠席数・授業態度 を加味して評価する	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
------	--	--	--

受講生へのメッセージ	実技の授業は局所解剖を理解し、理論を理解して初めて出来るものである。基礎知識、理論の理解なしで実技を行うことは、一つのやり方をまるまる暗記することに過ぎない。各外傷の種々なケースにも対応していくためには局所解剖、柔整理論を理解し考えながら実技を行う必要がある。常に本物の外傷を扱っているイメージで実技授業に臨んでもらいたい。
------------	---

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：柔道整復理論、柔道整復実技及び配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨床実習Ⅱ (Clinical Training Ⅱ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	米女 博司
学科	柔道整復科	授業 形態	講義・演習	総時間	90	開講区分	2学期
コース	I 部・Ⅱ部			(単位)	(2)	曜日・時限	各曜日 実習先

【授業の学習内容】

学外実習を行います。

各々学生が配置された接骨院・施設に出向き、臨床勤務している柔道整復師の指導に基づき、実際に接骨院・施設で提供されている施術を見て学び、管理柔道整復師の指導の下、施術の補助を行う。

実習期間は12日間(1日8時間)

【到達目標】

- ①医療従事者としての自覚を持ち、責任ある行動が出来る。
- ②患者に対して適切な行動が出来る
- ③患者の抱える問題点に共感出来る。
- ④他者の意見を聞くことが出来る。
- ⑤自己の問題点、不足点を抽出し解決する方法を述べる事が出来る。

授業計画・内容	
---------	--

1 回目	臨床実習の到達目標に加えて下記の内容を実施する。
90 回目	1 患者に対し医療面接が出来る。 来院肢位、発生機序から損傷部位、損傷程度を想像し考えることが出来る。 2 患者に対し臨床実習指導者が指示した身体診察法が出来る。 来院肢位、発生機序、患部の確認（一般外傷症状、骨折、脱臼の固有症状）の重要性を理解し、説明することが出来る。 3 安全性を考慮できる。 待合室、施術質の環境を配慮し患者の安全に配慮することが出来る。 4 自身と環境等の清潔保持を考慮できる。 頭髮、爪、白衣など自分自身に気を配り、清潔保持に努めることが出来る。 5 整復操作の重要ポイントを把握し、説明することが出来る。 術者、患者、助手の位置関係など整復時の重要事項を理解し、説明することが出来る。 6 固定の重要ポイントを把握し、説明することが出来る。 固定材料の特性を理解し、患部の不安定性を考慮して固定方法を選択することが出来る。 7 臨床実習指導管理者が指示した後療法を理解し、説明することが出来る。 関節可動域改善、筋力強化の方法および物理療法機器について理解し、説明することが出来る。 8 柔道整復師の業務範囲や健康保険制度を理解し、説明することが出来る。 業務範囲を理解すると同時に療養費受領委任制度について理解し、説明することが出来る。

準備学習時間 外学習	解剖学・生理学・運動学といった基礎科目を基に柔道整復理論や柔道整復学実技の知識の復習および評価や手技療法の復習を行っておくこと
---------------	---

評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (50%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (50%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	レポート50%、課題成果50%
------	---	---	-----------------

受講生へのメッセージ	実習施設は学校と契約を交わし、愛知県に登録された施設で行う。 何が必要で何を求められているのか、指示されて動くのではなく予測して判断すること。主体的に取り組むこと。	
------------	--	--

【使用教科書・教材・参考書】

解剖学、生理学、運動学、柔道整復学(理論編)、柔道整復学(実技編)その他臨床に関する参考書